

原田巻家仏壇

- 椿寿荘の建築に関わった新津の建築業者が、当時原田巻家から譲り受け、自宅の仏間に安置していたとされるもの。
 - 高さ183cm 幅231cm 奥行103cm
上質のケヤキ材を用い、基本的には釘は使わず、柄（ほぞ）組みで作られている。側面や背面には針葉樹（ヒノキ材もしくはヒバ材）を使用。
6枚の扉板にケヤキの玉もく板を嵌（は）めて作った仏壇。 ※制作年代は18～19世紀か？
 - 金具に「丸に二つ引き」の田巻家の家紋が使われている。金具は銅板に彫金し、鍍金（とकिन）を行っている。 ※鍍金＝滅金（メッキ）
 - 一部に和釘（角釘）を使用。丸釘は後世の補修時のものと思われる。吊り金具、鍔（かすがい）は、しっかりしたものを使用。
 - 中の宮殿はスギ材を用いて作られ、彫刻はケヤキ材で、素木造り（白木造り）。
- ※ 制作年代、制作業者、譲渡前どこに安置されていたかなど、不明な点が多い。